

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042 - 769-8288
担当部課名	生涯学習部	スポーツ	管理	係
事務事業名	淵野辺公園アイススケート場管理運営費		事業コード	15220

1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	生涯スポーツ・レクリエーションの振興	3年度
施策名	第2施策	スポーツ・レクリエーション施設の整備	

2 実施根拠及び関連法令等

スポーツ振興法、相模原市スポーツ振興計画、市都市公園条例及び同施行規則

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
スポーツを通じた市民の健康増進と生涯スポーツの振興を図るため、良好な施設環境を維持することを目的として、施設管理業務を行う。		銀河アリーナ テニスコート	
		対象数	各1施設
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
維持管理業務を(財)相模原市都市整備公社に委託する。プール利用者数 32,032人 収入 8,413,640円 スケート利用者数 99,261人 収入 39,437,290円 テニス利用者数 53,720人 収入 12,255,300円 トレーニング室利用者数 25,637人 収入 4,722,300円		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～年度

4 評価指標

指標名	プール利用者増加率	スケート利用者増加率	テニス利用者増加率
指標式	当該年度利用者数 ÷ 前年度利用者数 × 100	当該年度利用者数 ÷ 前年度利用者数 × 100	当該年度利用者数 ÷ 前年度利用者数 × 100
指標設定の意図	安全で快適な施設の提供	安全で快適な施設の提供	安全で快適な施設の提供

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	98	79	a 91	b 100	100	
指標	104	90	c 101	d 100	100	
指標	109	106	e 102	f 100	100	
事業費	決算(予算)額	336,520	343,278	329,346	359,314	327,222
	人員・時間数	0.1人・年	0.1人・年	0.1人・年	0.1人・年	0.1人・年
	人件費	842	842	842	842	842
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	337,362	344,120	330,188	360,156	328,064
特定財源	63,598	55,623	54,952	71,601	60,542	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 98.1%
	B:一部達成していない(100%> 80%)	
	C:達成していない (80%>)	

$\frac{a}{b} = \frac{91.2}{100.0} \times 100 = 91.2\%$	$\frac{c}{d} = \frac{101.3}{100.0} \times 100 = 101.3\%$	$\frac{e}{f} = \frac{101.7}{100.0} \times 100 = 101.7\%$
--	--	--

理由: 当該年度の利用者数が前年度以上であれば目標を達成していると判断する。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A:適応している	理由: 夏季は水泳プールとして、冬季はスケート場として稼動しており、利用者ニーズには応えている。
	B:一部適応していない	
	C:適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 B ▼	A:妥当である	理由: スケート、トレーニング、テニスについては費用対効果は妥当と思われるが、水泳プールに関しては年々利用者が減少しており費用対効果は低い。
	B:一部妥当でない	
	C:妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A:代替の可能性ない	理由: 公共的団体に管理を委託しているが、利用料金制度の導入など検討の余地あり。
	B:代替の可能性低い	
	C:代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 B ▼	A:満足できる	理由: スケートの通年開館を望む声が一部の利用者から出ている。
	B:一部満足できない	
	C:満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A:有効である	理由: スポーツ振興を図る上で、スケート、プールなどそのシーズンに適したスポーツができる施設として必要である。
	B:一部有効である	
	C:有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> プールでの自主事業の展開による利用者数のアップなど、検討の余地はある。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> 施設の老朽化とこれまでにかなりの経費削減を実施しているため、大幅な削減は難しい。

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較	利用料金制度を導入している横浜市のプールは、利用料金収入が予定収入を上回って経営をしている。
		市民の健康増進とスポーツ振興を図るため、今後も事業を継続していくが、利用料金制度の導入の検討など、より効率的な管理運営を目指す。
今後の進め方		説明
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	
<input type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了	

8 二次評価における変更点

--